

令和4年度第1回社会教育委員会議定例会会議録

【日時】 令和4年（2022年）5月20日（金）15時～16時30分

【場所】 鎌倉生涯学習センター第6集会室

【出席委員】 蛭田議長、梨本副議長、田中委員、品川委員、下山委員、高橋委員、遠山委員、石井委員

【行政職員】 佐々木教育文化財部長、茂木教育文化財部次長、森教育文化財部次長、
瀬谷教育文化財部次長、鈴木文化財課長、栗原図書館長、竹下教育指導主事

【事務局】 松山社会教育主事、岸社会教育指導員

【議事内容】

1 開会

- ・ 定刻になり、蛭田議長から開会の宣言により会議を開始した。
- ・ 委員10名のうち、島田委員、杉野委員の2名欠席。社会教育委員会議程第3条第1項の規程に基づき、過半数の出席があることから会議が成立していることを事務局より報告した。
- ・ 傍聴者なし。
- ・ 配付資料の確認を行った。

2 委嘱状交付

- ・ 品川委員、遠山委員の2名が選出団体からの交代により新任となったため、佐々木教育文化財部長より委嘱状の交付を行った。
- ・ 社会教育委員及び関係職員の自己紹介を行った。

3 議題

（1）報告事項

ア 令和4年度社会教育・生涯学習関連予算の概要について（議案集 P2-P3）

瀬谷教育文化財部次長

教育文化財部が所管する社会教育生涯学習関連予算は令和3年度と比較して増額となっており、令和4年の予算の総額は、16億6651万4千円。社会教育総務費は社会教育委員報酬や、～春夏秋冬～鎌倉武（KamaClub）（以下「鎌倉武」という。）にかかる経費、吉屋信子記念館の維持管理費、職員給与費などを。文化財保護費は令和3年度からの、史跡大町釈迦堂口遺跡崩落対策工事に掛かる経費や史跡永福寺跡管理業務委託料をはじめとする史跡等維持管理業務に掛かる経費を。生涯学習センター費は生涯学習推進事業委託料、センターの維持管理費などを。図書館費については、図書購入費に掛かる経費などを。博物館費は、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館の管理、運営にかかる経費となる。3ページは担当課別に令和4年度の主な社会教育事業を記載している。生涯学習課では指導課所管の鎌倉版コミュニティ・スクールの開始に伴い、地域学校協働活動推進事業を令和4年度から実施する。また小・中学生を対象に、鎌倉の歴史、資料等を活かした活動を、大学生など異年齢交流の中で学ぶクラブ活動、鎌倉武を実施する。文化財課では、令和3年度に公有地化した史跡永福寺跡の維持管理等を行う。中央図書館では、図書館が所蔵している昭和30年代から50年代の鎌倉の写真記録を写真集として作成、出版す

る予定である。

蛭田議長

ただいま報告を受けた令和 4 年度社会教育生涯学習関連予算概要について、質問等はあるか。なければ了承とする。

イ 令和 4 年度新たな社会教育事業～春夏秋冬～鎌倉武 (KamaClub) について (議案集 P4-6)

松山社会教育主事

第 3 回社会教育委員会議の協議事項であった社会教育事業の鎌倉武について、現在 5 月 28 日の春から鎌倉探訪に向けての準備を行っている。現在、小学生 10 名、中学生 1 名の申込みがあり、当日は、2 グループに分かれて市学芸員が待つチェックポイントを回り、鎌倉の歴史について学ぶ予定である。学生ボランティアについては社会教育委員梨本先生にも協力いただき、鎌倉女子大学に依頼して 5 名の学生が参加してくれることになっている。5 月 18 日に事前の打ち合わせと現地視察、iPad を使った AR の動作確認を行った。当日学生ボランティアは各グループに入り、北条義時法華堂や永福寺での AR 体験の補助等をお願いする予定となっている。今後の予定では、秋の吉屋信子記念館での写生大会や冬の音楽会等を計画しているところである。参加する小・中学生だけではなく、学生ボランティアにとっても良い体験となるような事業の組み立てをしていきたいと思っており、鎌倉の自然や文化、歴史、人材を生かした事業内容等についてご助言をいただきたい。また、今回の春の活動に向けて、市内各校へのポスターと広報かまくらへの掲載での募集を行ったが、応募が少なく、急遽、市のホームページ、鎌倉市教育委員会 note など SNS による情報発信等を行った。今後も ICT 等での広報等、公募の工夫も必要と考えているのでご助言いただきたい。

梨本委員

この度は、色々学生のご指導もいただいた。「鎌倉歴史探訪」に向けて、iPad を使って練習をする等、準備をすることは学生にとっても良い機会になっていると思う。是非このような機会を続けていただきたいと思う。「なつの学習教室」については、私は児童学部の教員で、5 月の「歴史探訪」は、児童学部の学生で私のゼミの生徒が参加するが、「なつの学習教室」は、教育学部の先生に声をかけていて、将来小・中学校の先生を希望する学生が参加してくれる予定になっている。3 か所の学校に分かれて行うとの事なので、人数などご相談させていただければと思う。子どもの数が少な目だったということだが、確かに広報は難しいところはあるかと思うが、あまり急な無理な事はしないで、序々に拡げていければと思う。少しピンポイントで声をかけられるような方法を今後ゆっくり作れたらよいと思っている。

下山委員

私たちが歴史探訪を実施したが集まったのが 1 人だった。コロナ禍ということもあったが、キャンプなども、ポスターと広報では来ないので、QR コードを付けて配る工夫をすると多く集まった。今はスマホ時代なのか、かざすと内容が全部出て申し込みもできる。前は往復はがきだったが、保護者は、往復はがきは知らない、自宅にはファックスはないという話もあったので、QR コードが一番良かったと思っている。

松山社会教育主事

悩んでいるのが秋の活動である。秋の活動は 2 つあり、写生の機会として、吉屋信子記念館に来て描いてもらうことが決まっているが、鎌倉の自然学習ということで、鎌倉には海もあれば山もあるのが、そのような活動で「こういう人がいる」「こういう活動が良かった」というのがあれば、教えていただきたい

と思っている。

蛭田議長

秋の活動、自然学習、写生会とか挙がっている訳であるが、事例など如何か。感想でも良い。

梨本委員

自然学習も、うちの学生が参加させていただければと思っている。教育学部の方で、理科教育の自然教育を担当している教員がいて、鎌倉市内の色々な自然のあるところで、生物であったり、調査などをやっているの、そのようなことと繋げて関心のある学生が参加できるといいと思っている。また具体的にご相談していただければと思っている。

田中委員

歴史探訪は、高校生がボランティアでお役に立てればよいが、土曜日は部活動が入っている。夏休みも昔と比べると日数が減っており、高校では 30 から 40、学校によっては 100 くらい夏季講習を組む学校もある。高校生が色々な体験が出来ないというのはある。集めるのにも非常に苦心するのだろうと思っている。昔は美術部が写生大会などに協力できたこともあるが、また協力出来ればと思う。近年は、昔と違って美術部の生徒の数が少なく、新聞部も廃部となり、放送は委員会では何とかやっている。吹奏楽を除くと、文化系の部活が成立しづらいような状況が高校にはある。

蛭田議長

なかなか自由な時間というのが難しいということである。今後ともこれからも色々協力をいただく事を期待しながら、この鎌倉武 (KamaClub) は、これからどう発展していくかも凄く大事だ。イメージとしては地域に根差した学校とか、特に子どもたちとか、大学を超えたボランティアとか、色々な発展形態が考えられる。

高橋委員

文化協会の中で、私どもは詩吟支部連盟という団体である。英勝寺さんとか、八幡宮の大銀杏のところでは実朝が殺害された、そういう話の物語は詩吟の中に多くある。10月23日に逗子のホールで特別企画として、私どもの会が「源平秘話」という題で、実朝の和歌、それから常盤御前の今和歌、音和歌、牛若を連れて歩く、そういう話と、平家、平敦盛の話、それから最後の壇ノ浦で落人の詩、これは皆さんのご存じの民謡の入った詩なのだが、その四題を特別企画でやる。今年は、たまたま鎌倉殿の13人という事で最初二題は源氏系の話で、後二題は踊り、歌も入って、笛の名手の平敦盛の話を入れたり、鎌倉というのは割と題材がある。俳句にも「目には青葉 山ほととぎす 初鰯」というのがあり、鰯は今美味しい時期だが、鎌倉でカツオ捌く、そんな話らしい。調べてみると、鎌倉で鰯がと思って色々調べて、生徒にも指導する時はそんな話をしながら話をする。英勝寺と太田道灌の話では、ただ誰が建てた話ではなくて、このようにして建てた、太田道灌は、本当はこういう人だったとか、色々な資料がある。鎌倉市の鎌倉武 (KamaClub) がせっかくの出来たので、それで発表する場があればよいと思う。

蛭田議長

事業のネームリングを読みが迷ってしまうが、そこが味噌である。委員から色々とお話をいただきたい。今回初めて委員になられた品川委員は如何か。

品川委員

先程 QR コードの話があったが、このチラシを小学生が見たときに勉強だと思ってしまう。いつも行けないようなところも行けるよということを QR コードを使って、写真を見たりすることが出来ると、

行ってみようかとなる。子どもたちは調べたりするのは好きだと思うし、鎌倉を知る学習も学校でもやっているの、上手く繋げていけたらいいのではないかと考えて聞いていた。

遠山委員

子どもが中学校に在籍をしており、先程、高校の先生から文化系の部員が少ないとの話があったが、中学校は割と文化系の生徒がいる。ボランティア部、美術部、理科部とかもある。自然というところを繋げて、理科と繋がっていくのかなとか思いながら伺っていた。理科部というと実験ばかりという印象をしますが、意外と外に出て、自分達の関心のあるものとか調べたりするのも行っている。あとは中学校に文化祭というのがあり、そこで文化系の発表する場もあったりするので、そのようなところと上手く連携が取れたりすると、もう少し申込者の数字が上がると思った。

田中委員

小学校で鎌倉幕府を習い、中学の歴史で鎌倉幕府を習い、遠足で鎌倉に行き、高校1年の歴史総合で鎌倉幕府を、3年の日本史で鎌倉幕府をやるのだが、どう変えなくてはいけないかを分かってないといけない。小学生4年生から中学生の子たちに鎌倉幕府を分かりやすく、発達段階に合わせながらテーマや中身を選んだり、練っていかないといけない。高校生にとって、鎌倉幕府の成立が1180なのか85なのか92なのか考えるのは、意味のあることであるが、小学生に考えさせるのは意味もない。面白いと思わせたいと思わせるのは伝え方だと思う。場合によっては人数が少なければ、次回は保護者の方が一緒に行きたいと思う。そうすると今度は募集人数を超えるかもしれない。その時は抽選すればいい。生涯学習の次世代のために、銭湯が子ども無料デーを設けるように、将来のお客さんを作ろうというこ都と同じ。

蛭田議長

いろいろなご意見があるが、他にあるか。

梨本委員

是非いろいろな中学校や高校からボランティアの方が参加して下さるとよいと思う。あとは私立学校もある。聞いたところではある学校ではコロナになって美術部の生徒が凄く増えたいらしい。運動が出来ないので、美術に関心がある生徒が増えたりしたそう。私立の生徒も良い機会なので声をかけてもよいと思う。保護者の方の参加については、やはり保護者が来られない子どもとかが引け目を感じてしまうかも知れないので、むしろ子どもが集まるグループを持っているところに声をかけて、部活でもよいし、集団で美術に関心があるかどうか、歴史に関心がなくてもよいと思う。学生が教育実習に行ったりすると、小学校高学年は今、戦国時代とかに凄く詳しく、刀剣に詳しい女子もいる。そのような時代に関心がある生徒がたくさんいると思うので、色々な方法でSNS等も使って声をかけてもいいと思っている。

蛭田議長

色々な意見をいただいた。自然だとか、絵を描くとか、音楽のコンサートとか、学習教室とか、将来子ども達の未来を考えるきっかけとなる。どうしても社会教育は、ごった煮になってしまう。そこをある程度焦点化するというのは難しい。年齢、年代、関心などとなってしまうが、色々やって、少しずつ小グループでもきっかけとなって繋がっていく、または増えていくという結果になると思う。このような新しい事業について、こんな事を聞いた、こんな事を思いついた、そういう事があると思うので、また事務局に寄せていただければ、非常に役に立つと思うのでよろしく願います。新たな事業については了承するという事でよろしいか。

ウ 鎌倉版コミュニティスクール・地域学校協働活用について（議案集 P 7 配布資料別途あり）

竹下教育指導主事

鎌倉版コミュニティスクール（以下「鎌倉版 CS」という）は、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域と学校が協働し、社会総がかりで課題解決に向かって取り組む仕組み作りのことである。いわゆる法に則った学校運営協議会ではなく、鎌倉の今ある地域を生かして、鎌倉版 CS を作ろうとするもので、社会に開かれた教育課程を実現する為に学校や子どもが抱える課題等について、チームとして一丸となって解決にあたる体制作りの事である。地域・家庭・学校のそれぞれが目標・課題を共有する事で当事者意識を持って学校運営に参画し、子ども達が安心して学び合えるワクワクする学校作りを目指すものである。鎌倉版 CS の委員構成は、委員構成については校長の推薦により教育委員会が委嘱する。中学校区に一つ、運営に CS を置くが、その規模によって 20 名以内で構成されている。任期は 2 年である。今ある学校評議委員会というものは、校長の求めに応じ、学校運営に関し意見を述べる事ができるのに対し、鎌倉版 CS 委員は協議会にて基本方針や学校運営に関する意見を当事者として協議する事ができる。鎌倉版 CS の活動の流れだが、4 つの役割をしていく事になる。まず学校運営基本方針の協議である。目指す子ども像というものを中学校区で共有し、地域学校協働活動を展開する。例えば、体験活動、安全支援、学習支援等の地域の人材を活かした協働活動である。つぎに学校関係者評価。学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価結果について評価をするものである。いわゆる、職員の評価をするというのではなく、今やっている児童のアンケート、学校関係者アンケートの元になっている学校評議員のしている学校関係者の評価である。つぎに学校運営に関する意見である。鎌倉版 CS において、熟議を行う。令和 4 年度から、第二小・中、西鎌倉小、手広中学校の 4 校に、鎌倉版 CS を設置して行き、令和 7 年度までに全校設置予定である。

松山社会教育主事

地域学校教育活動について、引き続き報告する。教育指導主事から報告があった通り、本市では、令和 4 年度に、第二中学校区、手広中学校区をモデル校として、中学校区に鎌倉版 CS の設置を予定している。地域と学校がパートナーとして連携・協働して行く為には、目標やビジョンを共有しながら、コミュニティースクールと地域学校協働活動を一体的に推進する事で、相乗効果を発揮すると言われている。コミュニティースクールの設置に合わせて、地域学校協働活動を一体的に推進する為に、地域学校協働活動推進委員を設置して行く事としている。推進委員の委嘱については、当該学校の校長と教育委員会が協議し、教育委員会が委嘱する事となっており、只今、各中学校区の校長、小学校・中学校の校長と協議をして、推進委員を探している状況となっている。

蛭田議長

これが鎌倉版 CS となるということである。如何か。

田中委員

既に高校では、学校運営協議会と言う言い方でやっている。法的にも変わったので、学校評議委員会とは大きく変わった筈だが、学校や委員自体が「変わるんだ」という事が分かってないといけない。非常に難しいのは、高校の場合、鎌倉市より他市の生徒の方が多く、全県学区から来るので、地域の代表者だけでは上手く行かない。学校側が、PDCA を回して行く為には、やはり色々な各界の人を集めないと、戦略的に目指す生徒像というのを育成する事が出来なくなる。どちらかと言うと、評議委員会の時は、OB・OG が多く、今までの高校で良いのではという声が支配してしまう。学校運営協議会になると、まず委員

を厳選しないと上手く PDCA を回せない。小・中学校の場合は、高校と大きく異なるところだが、委員の選出の仕方を考えながらやれば、鎌倉は良いのが出来るのではないかと考えている。

品川委員

鎌倉版 CS の話は聞いているが、先進的に 2 つの地域で始まるという情報を受けて、自分達の所でも、どうやって進めて行くかを考えながらやっていると認識している。県内の他の小学校ではもう始まり、色々話も聞いているので、良い所を取り入れながらやっていければと思っている。

下山委員

小学校の校長先生が選ぶというので、どういう方が入るか分からないが、地域に近い人が入って行くと言う事か。

竹下教育指導主事

中学校区の規模なので、小学校の規模よりも大きくなるため、人数制限で 20 名以内となる。どの様に選んで行ったらよいかと言うところも課題だと思っている。

下山委員

その辺が小学校区と中学校区は違いがあるが、協力はしていきたいと思う。

遠山委員

去年の PTA 指導者セミナーに行った時、初めてこのコミュニティースクールを説明で知った。神奈川県は、ほとんどの高校が出来ており、都道府県で考えると結構取り入れているようで、地域で差があるのかと初めて認識した。私は PTA ぐらいしか関わりがないが、学校と一体、地域と一体、ということが、このコミュニティースクールができることによって、それがもう少し対等な形で関わるといえることになれば、保護者とも地域の人とも輪の様な形で、子ども達の教育とか見守って行く事に前向きになれるのかと思う。しかし、まだ何が実際に変わるのか、多分、外の人には感じていないので、そのところの話をもっと少し情報交換とかできると良いと思う。ほとんどの保護者の人がこの存在を多分知らないで、知らない人にどうやってアプローチして行くかということを知りたい。

蛭田議長

色々のご意見を貰ったが、事務局の方から何かあるか。

竹下教育指導主事

2 月に全校の 25 校の学校評議員に向けての説明会を予定していたが、コロナ禍で中止になり、今年度また計画中である。またモデル校、いわゆる実施校についてもどのような形になるか分からないが、チラシを配布して周知するとか、地域、保護者の方に向けて説明会を聞いてもらう仕組みを計画中である。また、品川校長から情報を集めてと説明があったが、今年度からは検討委員会というものを開いており、今年度からは準備委員会という形で、令和 5 年度に設置予定の学校を集めて情報を収集し、モデル校の情報からどのように準備していくかを順次、準備委員会という形で開催していく。今年度の準備委員会は令和 5 年度設置予定、来年度の準備委員会は令和 6 年度の設置を予定している学校を集めての準備委員会を開催する予定となっている。そのような形で、地域、家庭、学校に向けてコミュニティースクールという情報を発信したいと考えている。

田中委員

鎌倉版 CS は、やはり鎌倉らしさが求められるのだと思う。先程言ったとおり、県立学校とか、横浜市立の中学校とかも実施しており、そのような所はどのようなことをやっているのか、それでいながら鎌倉

らしさをどう出すのか。例えば資料の中の鎌倉版 CS の活動の流れで、②に地域学校協働活動というのがあるが、例えば、この鎌倉武 (KamaClub) の生徒の募集はまだ数が少ないとすると、その中学校の委員がいれば、少ないから依頼する。そのように地域学校の協働活動を上手く取り入れていけば、私は鎌倉らしいコミュニティスクールが出来るのではないかと思っている。そこはぜひ考えていただけたらと思う。

石井委員

この資料を見てみて、横浜に同じようなものを見たことがある。比較して見ていたが、ここの説明にある中学校区の規模により 20 名のところ、この中学校区は、小学校、中学校も含むという考えかたで理解していいのか。地域の中の学校の位置付けが明確になり、地域の活性化にもなり、学校の活性化にも繋がるというので、楽しみにしている。

高橋委員

例えば学校を退職された方とか、それから色々な経験を持つ方で、子どもに対して、普段経験したことのないようなことを経験をする、というのは、ひとつ大事な事だと思う。そのようなところからスタートしていくと、意外といらっしゃるものだ。例えば、ボーイスカウトでよく活動しているのを見ると、凧上げの凧を作ったりしている。買ってしまえば簡単だが、凧の足を付けたり、竹で枠を作ったり、それから紙飛行機を作るとか、得意な方が大勢いらっしゃると思う。経験者や委員の募集というのはどうなのか。

竹下教育指導主事

委員の方は、他市の状況を見て、今は情報を集めており、学校評議員、元地域の青少年指導員、退職校長とか、そういった方や学識経験者が多い。その中で、その地域の事を知っている方、学校の事も知っている方で、学校長と相談して、連携を取れる方というところを見て委嘱したいと考えている。

高橋委員

私たちの世代は、だんだんついていけなくなるが、今の時代には、時代に生きてきた人たちの経験とかが必要と思う。それこそパソコンで授業が出来たりする。私たちの時代では考えられなかったことで、そのような学識経験者の方と校長先生と話し合い、いいコミュニティスクールが出来るといいと思う。

下山委員

2 年前の社会教育委員会、県の方の社会教育委員会でこの話を私は聞いて思い出したが、その時に横浜は大分出来ていたと伺っている。だから鎌倉の方にも来るという認識はしていた。小学校区だと、地域懇談会というのがあり、これから 6 月にかけて総会がある。そのようなものがもっと大きくなるのだろうというイメージが湧きにくい。学校区で小学校区も入れて 20 人を集めることを想像すると、小学校と中学校はまったく違うので分かりにくいと私は感じた。凧づくりなどは私たちもやっており、この前は 200 人以上来凧あげをした。そういう人達を学校のコミュニティスクールに集めたいのかというような気がしたが、ちょっとイメージが掴みきれていない。

佐々木教育文化財部長

若干補足をさせていただくと、まず、なぜ中学校区なのかと言うと、鎌倉市の教育としては小中一貫教育を目指しているところがある。小学校 6 年、中学校 3 年の 9 年間で育ちと学びの連続性を確保し、子どもを育てていこうことである。今回、鎌倉版 CS については、地域とともに、子どもを育てていくというところで、様々な学校運営基本方針から入っていただいて、どういう子どもたち、目指すべき子どもを共有していただいて、なおかつ実際に活動も地域の方々力を借りながら学校運営をしていきたい、という形である。法律に基づくものではなく、鎌倉版 CS は、今、各委員からの意見に出たように、横浜市か

らは遅れて、今年度からモデル校として 2 中学校区で始めていこうということである。具体的に今後、どうなっていくかというところもあるが、ここで実践的に 2 校、取り組む学校がうまく行って、さらに展開して全 25 校がコミュニティスクールとして作られていくというところを目指している。今年がとっかかりになるので、ここでどのような成果を出していくのか、というのは、教育委員会と学校と地域の方々と取り組みを連携しながらやっけていこう、というようにに考えている。またその具体的な取り組みはこれからになるので、またご報告が出来ればと思っている。

蛭田議長

鎌倉版 CS 地域学校協働課題について、これくらいでよろしいか。了承することとする。

エ 鎌倉市指定文化財の指定及び解除について

鈴木文化財課長

令和 3 年 11 月 15 日開催の令和 3 年度第 2 回鎌倉市文化財専門委員会に置いて諮問し、令和 4 年 1 月 11 日開催の第 3 回同委員会での答申を得た後、令和 4 年 2 月 2 日開催の鎌倉市教育委員会で議決され、2 月 15 日に告示したものである。始めに指定物件 1 件の概要について説明する。物件は古文書「紙本淡彩海蔵寺境内絵図一幅」所有者は海蔵寺である。この絵図は寛政 3 年（1791 年）に作成された当時の海蔵寺の様子を描いた図である。海蔵寺は扇ガ谷 4 丁目にある臨済宗建長寺の寺院で応永元年（1394 年）に鎌倉公方足利氏満の命をうけた上杉氏定が、空外（くうがい）を開山として建立したとされている。この絵図は令和 2 年度に指定した報告寺境内絵図と同様に寛政 2 年（1790 年）に江戸幕府が建長寺へ、境内の伽藍や坪数を示した図を提出するよう命じたことを受け、本山である建長寺が海蔵寺をはじめとした末寺分の境内図を取りまとめて、幕府に提出した際、海蔵寺に残された控えと考えられる。絵図には表門を入れて南西に仏殿、北西の正面の一段と高くなったところに場所に客殿と庫裡、玄関、長屋、下屋が描かれており、全体にわたって道路と水路を彩色によって示し、建物の周りの地形や、門・仏殿・客殿の扁額の文字など、細部に表現が及んでいる。これらの建物の配置や地形などは現在とおおよそ同じとなっている。絵と併せて図の下の方には境内の坪数、建物名や規模などを詳細に記しており、当時の海蔵寺境内の様子を詳細に知ることが出来る貴重な資料である。次に解除物件である。解除物件は天然記念物「覚園寺のナツグミ」である。所有者は覚園寺。覚園寺のナツグミは二階堂 421 番地、覚園寺の境内にあり昭和 47 年 12 月 12 日に市指定天然記念物に指定した。所有者である覚園寺により管理されてきたが、この度、枯死、枯れて死んでしまったことを確認し、天然記念物としての価値がなくなってしまったため、指定を解除したものである。このナツグミは以前から樹勢が衰えており、所有者からの相談も受け、その都度、市の文化財の専門委員、植生を専門とする委員や樹木医が状況を確認していた。平成 30 年に専門委員による確認をしているが、この時はまだ完全には枯れてはいなかったため、少し様子を見守った経緯がある。今回再度所有者から相談があり、令和 3 年 10 月 25 日に専門委員が確認したところ既に枯れている事を確認したものである。以上、新たな有形文化財の指定が 1 件、天然記念物の指定解除が 1 件となり、鎌倉市指定文化財の件数は、変わらず 328 件となる。国宝の 15 件、国の重要文化財等 202 件、県の重要文化財等 64 件と併せ市内の指定文化財の数も合計 609 件で変わりはない。

蛭田議長

ただいまの報告について質問、ご意見あるか。なければ了承することとする。

オ 鎌倉市生涯学習センターの指定管理者の指定について

瀬谷教育文化財部次長

最初に指定管理者選定の経緯について説明する。本日配布した資料をご参照いただきたい。令和4年1月19日に開催された教育委員会において、鎌倉市生涯学習センター指定管理者選定委員会を設置した。第1回鎌倉市生涯学習センター指定管理者選定委員会を2月24日に開催し、本市の生涯学習センターにふさわしい指定管理者について、募集要項及び仕様書について協議をいただいた。今まで実施して来たアンケート結果及び説明会における利用者等の意見、要望を出来る限り反映するため、3月9日に開催した第2回選定委員会においても引き続き協議を行い作成した。また、第2回選定委員会では選定基準の項目、及び配点について協議するとともに、最低基準を6割とする事の確認を行った。指定管理者募集にかかる公募を3月21日から行い、4月5日には現地説明会、その後事業者からの質問、及びその回答を経て4月25日から27日まで提案書の受付を行ったところ、2団体から応募があった。第3回選定委員会を5月7日に開催し、提案書類の確認を行うとともにプレゼンテーションのテーマ等について協議を行い、5月14日に第4回選定委員会を開催し公開プレゼンテーション及び委員による質疑を行った。応募団体からの提案書類及び公開プレゼンテーションの結果を踏まえ、選定委員による審議および採点が行われたところ、若年・現役世代に向けた取り組みが期待できること、また全世代に渡る取り組みや地域ごとの特性を捉えた運営ができると期待できると言ったところから、相鉄企業株式会社と株式会社小学館・集英社プロダクションによる共同事業体、鎌倉 CITY パートナーズが鎌倉市の生涯学習センターの指定管理者候補者としてふさわしいという結論となった。その結果を受け、5月18日に開催された教育委員会定例会において鎌倉市長に鎌倉市生涯学習センター指定管理者の指定について市議会6月定例会に議案の提案を申し入れることが承認された。今後市議会6月定例会の議決後、指定管理者を指定する。

蛭田議長

ただいまの説明について質問、ご意見はあるか。なければ了承する。

カ 令和4年4月から7月の行事一覧について

松山社会教育主事

令和4年度においても引き続き感染状況に応じた対策を講じながら開催していく。一覧の1番、新たな社会教育事業として鎌倉武を計画している。2番から21番は各学習センターで実施する推進委員会が企画する講座・イベントを掲載している。22番から27番は歴史文化交流館、鎌倉国宝館で開催される展覧会の一覧を掲載し、そのうち24番は大河ドラマ鎌倉殿の13人に関連し、「鎌倉殿の13人」鎌倉市推進協議会との共催で講演会を開催する。28番からは図書館からの事業でブックスタートをはじめ、おはなし会などの事業を掲載している。

蛭田議長

ただいまの報告について、ご質問、ご意見はあるか。なければ了承することとする。

(2) 協議事項

鎌倉市生涯学習プランアクションプラン進捗管理について

松山社会教育主事

令和3年3月に策定した鎌倉市生涯学習プランを推進するため、本市の取り組みを一覧にまとめアクションプランとして位置づけている。その内容について令和3年度の進捗状況について関係各課に照会しようとするものである。生涯学習プランにかかる事業は様々な課において開催されているという状況から、担当課、事業名、事業内容に加えて、他業種のつながりや連携している団体等が分かるような形に

できないかという考えで、枠を作り記載をしてもらおうと考えた。進捗状況については、昨年度各課から回答を頂いた事業について、成果を、達成、ほぼ達成、未執行という形で回答をもらい、特記する実績と課題について、文書での記入を依頼する。課題等については、今後どのような取り組みをするのかも書いてもらおうという考えである。鎌倉市生涯学習プランを着実に、また有効に推進し進行管理するためにご協議いただきたいと考えている。

蛭田議長

ご意見ご質問はあるか。社会教育委員会議は、条項の第 15 条というのがあり、そこで社会教育に関することを教育委員会に助言するために、社会教育に関わる諸計画や教育委員会に社会教育に関して意見を述べるということになっている。令和 3 年度から 5 年間の生涯学習プランの作成には、当委員会で協議を行ったという経緯もある。鎌倉市の社会教育振興のため、生涯学習プランの進捗管理について、ご質問ご意見等願います。これを見て、達成したか、達成していないか。未執行では、いろいろ課題を評価するということがポイントになる

梨本委員

例えば地域共生課や市民健康課などが担当課になっている事業については、成果というところは出しづらいような気がする。あくまでも例えばだが、生涯学習プランの 14 ページの (2) の「生き方に対する学びの支援」というところだが、担当が地域共生課になっていて、事業内容が啓発冊子等の配架を行います、となっていたとすると、冊子を配架していると達成。このような計り方で良いという理解でよろしいのか。

瀬谷教育文化財部次長

そういう形になってしまう。昨年 4 月の社会教育委員会議でも、梨本委員から「これが事業内容だと、ちょっと物足りない。」というような意見をいただいているのは記憶しているが、そこを逆に課題のところとかを各課で深掘りしてもらえたらということなので、繋げられるかと思う。配架すれば良いというものでは当然ないとは思う。

田中委員

学校なども、毎年ある一番の問題が評価である。評価が結構自己満足になってしまい、客観的ではない。教員の想いで出来たとあっても、何をもって出来たのか、数字で出来たでは根拠はない。自分の都合のいい所だけを持ってきて、ここの全体の枠の評価というのは駄目だと思う。課題があったら、これについては達していなかったとし、事業を見直し、このような対応をしたい、次年度こうする、というのをしていけば、連携する課においても、お互いがどうしたらいいのかを出していけるのではないだろうか。

梨本委員

先生の話ですっきりした。課題のところ確かに色々と変えていきたいとか、工夫が必要と思った。

蛭田議長

社会教育の関係の評価というのはどうしても人数が集まったとか、期待した以上に参加者が満足している。そこでもう引っ張られてしまう訳だ。私は、例えば集まらなくても、ボランティアの講座に参加したら定員よりも下回っていた。ところが実際にその講座が終わって、ボランティアに関心があって、そこから地域社会で活躍してる人、参加した活躍した人の割合が高くなっていった。だとしたらこれはやはり事業評価としては高いと思う。美術館などは何人入ったとか、それで見てしまう。何人かが下になってしまうと、これはもうダメだから予算を減らせと言う可能性は非常に高い。田中委員の言われた事は非常に

大事なポイントで、その関連性を見ないといけないのではないかと思う。議論の余地がある訳だが、一回やるだけやって見て、評価もチェックされるので、そこがポイントになっていく。横須賀の例を言っ
てはいけませんが、3年前のところの参加人数とか、そこを軸にしている。それを超えていればプラス、下回
ればマイナス、それで良いのかと思う所はあるが正直分からない。

田中委員

高校の場合、今迄、どちらかと言えば出来た、努めた、とか、それは何故か、そういう根拠を私も聞か
れて困っていた。それで先ほど言ったように、メンバーや委員を変えていかないと思う。前の学校では
委員に経団連や銀行の調査部の重役、大学の教育学の教授、地域の方も幼稚園と町内会も入っていた、あ
る程度客観的に、特に外の地で必要だと思われるものを敢えて入れていく、民間の発想とかそういうもの
が必要だろうというのが私の考え方で、勿論地域も必要だが、そのような人を入れていかない限りは、組
織として継続性や活性化ができないだろうと思う。駄目だったら駄目でいい。今年出来なかったから、そ
れが課題になる。今年で達成出来なかったのだから、次年度は達成に向けて広報活動を頑張る。達成できな
かったら、達成できなかったのだから、そこは恐れなくていい。これは客観的に出来なかったのだから。た
だそこは課題になるということだ。

蛭田議長

この目標についてはこれでよいか。方向性は先程報告があった。他に何か意見あるか。なければ、これ
で了承することとする。

(3) その他

ア 令和4年度、第1回神奈川県社会教育連絡協議会理事会の報告について

事務局

5月9日に第1回理事会が藤沢の総合教育センターで開催され、下山委員が出席したので報告をお願い
する。

下山委員

事業報告では、研修会がまったく出来なかったという話であった。理事会は、まず幹事会があり、瀬谷
次長も出席して4月16日、10月25日にあった。理事会は、4月16日神奈川県民ホール。10月25日、
3月14日はオンライン、書面会議が5月27日であった。事業検討調査研修会では、社会教育委員会の
小池会長、副会長の3名。幹事として横須賀の高橋様、秦野の水島様で行った。決算報告では、繰越金が
3回目の令和3年度最後の会と、4回目の1回目の会議で繰越金が変わっていたため、関東甲信越研修大
会の積立金に20万円を出したというご報告があった。ZOOM等で出金がなく、残58万4,873円あった
のでという報告があり、監査も通った。令和4年度の事業計画案は、幹事会が5月9日、10月30日、
オンラインで2回行われる予定。理事会が3回、5月9日、10月31日、令和5年2月6日、神奈川県
県民ホールで行われる予定。理事会は各市町村から1名、社会教育委員から1名。人口40万人以上の市
町村からは各2名選出されることになっている。総会は、令和4年6月24日総合教育センターの講堂。
こちらの出欠は事務局で取る。研修会は、8月29日総合教育センターの講堂、そして事業検討会、調査
研修会等が11月28日、令和5年3月13日、地区研修会は、令和5年2月26日、箱根。会計監査は逗
子市、中井町の生涯学習主管課長。令和4年度は、大和、真鶴の生涯学習主管課長で構成される。こちら
の監査は令和5年4月に実施される。社会教育委員会のハンドブックは、総会で承認が出れば、修正版と

して出す。改正は令和 9 年関ブロが終わってからという話だった。全国関東ブロック関係では、第 64 回の全国社会教育研修大会は広島で行われる。社会教育委員の連合総会は、5 月 20 日、日本弘道会ビル。10 月 27 日、広島国際会議場。今年度の関ブロは山梨県。令和 7 年度は神奈川県。実費と会費も払う形となる。あとは予算案だが、先ほど言ったように、繰越金の 20 万円を関ブロの令和 7 年度の大会特別積立金として積み立てをしたと報告があった。令和 7 年度の話になるが、関ブロの実行委員会を打ち立てていくということである。過去鎌倉市でやったことがあるが、いま 1 万人収容できる場所が課題。過去鎌倉市でやった時は、鎌倉、藤沢、横須賀に 3 つか 4 つに分け、総会は鎌倉市の芸術館のホールでやった。ただこの 3 つの会場に分けるのは、あまり芳しくないそうである。鎌倉芸術館は 1500 席、19 万 7,050 円と一番安いそうで、他は 60 万とかの金額。金銭的には大変なところは、広告料を集めることになりそうである。会費は 3,500 円以上になる。他に役員を選定があった。鎌倉市は、杉本先生が一度なった以外 15 年間誰も出ていなので鎌倉で是非と言われた。会長は小池先生が続投、副会長が相模原市、愛川。そして私が副会長ということになった。なるべく 7 年まで委員が変わらないとよいとの話とともに、関ブロには参加して、どういうものか見てほしいという話だった。最後に、社会教育と生涯学習の違い、棲み分けはどうなっているのか、ということが委員の方からお話があった。これは一長一短には話ができないので、小池会長が総会の時に、この講演をしたいと言っていた。県としても生涯学習課となって、社会教育部課が無くなっているのはどういうことなのか。というところも踏まえて、お話をしていきたいということであった。

イ 令和 4 年神奈川県社会教育連絡協議会総会の開催について

事務局

未定のため、内容がわかり次第連絡する。

ウ 次回定例会（8 月）の日程について

事務局

欠席委員を含め、事務局で調整して各委員に連絡する。